

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 26 章 26～30 節>

①背景を知って、初めてその意味が分かる「最後の晩餐」

「最後の晩餐」はダヴィンチの絵などでよく知られています。しかし、この出来事の意味の深さは、エジプトの奴隷であったユダヤ人が神様によって救い出された過去の出来事(出エジプト記 12 章)と、イエス様の十字架の死以後教会でなされ続けている聖餐式(Ⅰコリント 11 章 23～26 節)を知る時に本当に分かって来るのです。

②弟子たちが驚いたのは、イエス様のしたことの新鮮さ！

イエス様と弟子たちがしていた食事は、他のユダヤ人皆もしていた食事でした。すなわち、父祖たちが神様に救い出された時のことを思い出す食事です。しかし、弟子たちはとても驚いたでしょう。なぜなら、そこで話される内容が替えられていたからです！そこでするはずの出エジプトの話ではなく、この後にイエス様が架かられる十字架の死のことに替えられていたからです。このとき初めて聞く話だったからです。そして、この後、弟子たちは千数百年前の神様の救いの出来事、出エジプトの話ではなく、イエス様によって起こされた新しい救いの出来事を語り伝える者となったのです。出エジプトの出来事を起こされた救いの神様がなされた新しい救いを伝える者となったのです！(エレミヤ書 31 章 31 節)。聖書のイエス・キリストの救いは突然脈絡なく現れた救いでなく、長い歴史を貫いて人間を救おうとし続けて下さっている神様の、脈絡ある筋の通った救いの出来事なのです！

③暗さで終わらない、最後の晩餐の出来事！

これは最後は讚美で終わっている出来事です(30 節)。また、29 節は暗い内容でなく、祝宴に例えられた神の国が用意されていることを主イエスが告げられている明るい内容なのです。主の十字架の死は重く暗い。しかし、だからこそ、それによって約束された恵みはとてつもなく明るいのです！福音の真骨頂ここにあり、です。